

表1 バックシン上のナシ赤星病菌冬胞子堆の成熟状況の推移（水浸法）

調査地点名	調査時期 月-旬	平成30年		平成29年		備考
		膨潤率(%)	成熟度	膨潤率(%)	成熟度	
朝倉市	3-2	-	-	0	0	
	3-3	0	0	0	0	
	3-4	7	5	-	-	昨年より冬胞子堆やや多く確認される
	3-5	7	2	0	0	
	3-6	14	4	5	2	
	4-1	99	72	39	12	立木の状況で膨潤程度がB以上の冬胞子堆は、7割程度
	4-2	100	80	70	40	雨が良く当たる場所に着生した冬胞子堆は破裂
	4-3			94	59	
八女市	4-4			100	81	
	3-2	-	-	0	0	
	3-3	0	0	0	0	
	3-4	0	0	-	-	立木の状態で膨潤しているものは確認されない
	3-5	19	8	28	7	立木の状態で膨潤しているものは確認されない
	3-6	14	5	40	13	
	4-1	100	61	43	14	
	4-2	100	84	94	65	
筑紫野市	4-3			100	84	
	4-4			-	-	
	3-2	-	-	0	0	立木の状態で膨潤しているものわずかに確認
	3-3	0	0	0	0	立木の状態で破裂直前の冬胞子堆わずかに確認
	3-4	16	13	-	-	
	3-5	14	4	0	0	
	3-6	47	14	13	4	
	4-1	100	80	32	8	立木の状況で膨潤程度がB以上の冬胞子堆は、8割程度
4-2	-	-	88	63	雨が良く当たるため、冬胞子堆はほぼすべて破裂	
4-3			86	49		
4-4			100	96		

注1) 調査方法と冬胞子堆の膨潤段階の評価は、野口ら（1970）の方法を一部改変。

バックシン上の冬胞子堆を水に30分浸漬し膨潤程度をA：冬胞子堆が外観的に完全に膨潤、B：一部が未膨潤、C：約50%未膨潤、D：一部膨潤、E：全く膨潤していない。の5段階で評価し膨潤率と成熟度を下記の式により算出。

注2) 膨潤率 = (A + B + C + D) / 孢子堆数 × 100

注3) 成熟度 = { (4A + 3B + 2C + 1D) / (4 × 孢子堆数) } × 100

注4) -は欠測